

建物のコンセプトは
ジェームス・タレル「オープンスカイ」
のようなスタジオ

矢吹写真館（北海道稚内市）矢吹尚也氏

リニューアルのきっかけは
直島の地中美術館

スタジオをリニューアルしようとしたのは、建物が古かったということもあるが、2006年6月に、瀬戸内の直島



矢吹尚也氏

にある地中美術館を訪れたことが大きなきっかけとなっている。最近では島をあげてのアート活動が話題となり、ご存知の方も多いのでは？と思う。

その美術館で、ジェームス・タレルの作品「オープンスカイ」にひととき強い



スタジオ外観



感動を覚え、周りの妻や子どもたちに、「3年後に、こんなスタジオを建てるぞ」といつい宣言してしまった。

そう宣言はしたものの、建築するような具体的な話など何もいままに迎えた2009年の元旦。20年ぶりに、大学時代の友人である建築家から卒業以来初めて連絡をもらった。運命的なものを感じ

てその場で彼に設計を依頼した。

そうしてスタジオが完成したのが2009年11月。「3年後にスタジオを建てるぞ」と宣言したときから、ギリギリ3年(?)でリニューアルオープンの日を無事に迎えることができた。

リニューアルしても変わらないもの

実は今年の2月末に、作業中、脚立から転落して怪我をした際に、フィルムの

交換ができず、フィルムカメラでの撮影が困難となった。そこからデジタルカメラでの撮影に切り替えたのだが、時期がたまたまリニューアルと重なり、いいタイミングで切り替わったのではないだろうかと思っている。

撮影方法自体は、リニューアルしてもデジタルになっても何も変わってはいない。フィルムの時と同じように色温度と露出だけは正確に合わせることを心がけている。

上を見上げるとどこまでも突き抜けるようなスタジオを作りたかった



上：ロフトへ上がる階段ホール
下：エントランス
左：新設スタジオ



ロフトにかけられたアンセルアダムスのオリジナルプリント

ウィリアム・ブレイクの 詩のように…

当店のコンセプトとして、スタジオ入り口のガラスに刻まれている英語の詩は、詩人であり、版画家でもあるウィリアム・ブレイクの一節なのだ。

[TO SEE WORLD IN A
GRAIN OF SAND
AND HEAVEN IN A WILD
FLOWER
HOLD INFINITY IN THE
PALM OF YOUR HANDS
AND ETERNITY IN AN
HOUR]

「一粒の砂の中に宇宙があり
一瞬の中に永遠がある。」
という内容である。

この言葉は、写真の表現手法にも共通するもので、シャッターが下りるその瞬間を、永遠の時間の中に存在する記録として残せるように、という思いで、撮影していきたいと考えている。



玄関のガラスに施された
ウィリアム・ブレイクの詩



EPSON Brooks Award Gold Prize (最優秀作品賞)



2010年度 北海道写真館連合会 北海道知事賞受賞作品